

朝日寺だより

いよいよ御開帳です

住職 若松隆英



檀信徒の皆様、あけましておめでとうございます。良いお年をお迎えのことと存じます。新年にあたり、毎年色々なことを思いますが、今年は何と言っても朝日寺にとりましては三十三年に一度の特別な年、本尊薬師如来様の御開帳の年です。四月五日、六日(土日)の行事が賑やかに気持ちよく、思い出深く残る様なものになることを願うばかりです。

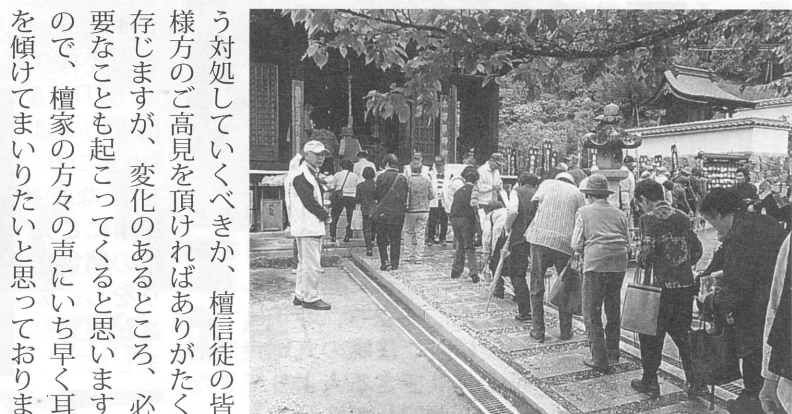
前回の御開帳は、昭和五十六年五月三日―四日の二日間、近隣のお寺の住職に出席いただき、本堂での法要、稚児行列、法話、演芸等盛りだくさんの内容の行事を行いました。今回は近隣のお寺の住職による法要や稚児行列の行事は四月五日の一日で行ないますが、皆様によりゆつくりお薬師さまと向き合ってください。皆様が開帳のお時間を予定しております。皆様喜んで頂けますよう、色々なお接待なども用意しておりますので、四月五日、六日はぜひお参り下さい。

ところで、お寺にとりましてこの御開帳は過去三十三年間を振り返るとともに三十三年先を見通す機会でもあります。この三十三年間を振り



返った時、まず思うのは境内・宝物の整備の進展です。本堂・客殿のほらいぶき、庫裏の新築、駐車場の新設、本尊の薬師様をはじめとする仏様の修復、掛け軸の修繕等々、枚挙にいとまがありません。これらはその都度檀信徒の皆様にはご寄付をお願いし、ご協力によって実現したことです。感謝に堪えません。お葬式や法事は今も昔も檀家の方がお寺に求める一番の要望ですが、墓地が欲しい、お位牌を預かって欲しい等の声が多く寄せられ、お寺では霊園の造成、位牌堂の造設、永代供養塔の建立などを行なってきました。さらに、世間では寺離れが叫ばれる中、お寺に親しみをもち接して頂くよう、裏山にツツジを植え、花まつりの行事を催し、おうどんの接待をしたりしてきました。この間寄付金の

世に目を転じますと、昨年後半は食料の偽装問題が全国に広がりました。消費者にはその判別がつきにくいところから起きる問題かとは思いますが、産地の人が年月をかけて積み上げてきた信用をも食い物にすることは許せないことです。産地の方は、人々に食べてもらおうと一生懸命作物を作り、消費者は丹精込めて作られた作物や生産者に感謝しながら食べる、そのようなお互いの顔が、物



集金に協力して下さい。総代さんや、また諸行事を盛り上げて下さった婦人部、御詠歌隊にはお世話になり本当にありがとうございました。どうぞございました。

さて、これからの三十三年間を思った時不安な事がいっぱいあります。日本全体の人口の減少、特に地元地域の過疎化・高齢化・少子化がより進むことが考えられます。これらにど

発行者 若松隆英
総代 山代
印刷者 奥山印刷

年頭に当たって

総代長 清水 佐伯男

檀信徒の皆様、新年明けましておめでとう御座います。皆様お揃いでよいお年をお迎えのことと存じ上げます。

今年の朝日寺の行事も二月三日の節分会には約八十名のお参りをいただき豆まき福引等で楽しい節分会になりました。五月十一日の花祭り(第七回薬師如来祈願法会)には朝から雨が降ってしまいましたが花祭りを開始してからは小雨になったり、やんだ

流の複雑化で見えなくなってしまうているのかも知れません。「給食費を払っているんだから、子供にいたできますといわせるな」という親がいるという、信じがたい話を耳にします。お金を払ってやっているのだから、その上いだけますと感謝を口にするなどんでもない。逆に感謝されるのはこっちの方だ、と真剣に考える大人が増えたのでしようか。確かにレストランなどの外食先で、手を合わせたいただきますと言っている方はどれだけおられるでしょうか。対価を払って消費するという社会に、当たり前のようにどっぷり浸っているのが今の私たちです。ですから食の安全にこだわるあまり、生産地や原材料などの表示だけに目を奪われます。しかしそれら商品表示のもとと奥深いところにある、生産者の額に流れる汗、努力とご苦労、消費者の喜ぶ笑顔。目では見えませんが、確かにそうした生身の人間が関わっています。手を合わせたいただきますという態度は、目で見える以上の、途方もない世界に対する思慮深いものに見方に裏打ちされて、はじめて自然と身につくものです。大人自身が責任を持つてこうした態度



り行事には影響はなく、二百名以上の参加者があり大盛況でした。七月十五日の読み上げ「投げ銭供養、市指定の無形文化財」では初盆の方々、又戦没者の方々の冥福を住職の読経によりお祈りいたし家族、親族、友人による投げ銭が行われました。放送局も数社来られその夜のニュースで放映されました。八月十五日

を示していくべきだろうと思えます。わからないと思ってもいつかはわかるのが「ウソ」です。一度信頼を失うと、それを取り戻すのはとても難しい努力を要します。きつと今みんなの目は、目立たないけど地道にこつこつとやってきている人に向いてきているのではないのでしょうか。私も朝日寺で目立ったことではなくても、こつこつと皆さんの信頼を積み上げていくようにしたいと思っております。

さあ、いよいよ今年も御開帳の年です。これまでいろいろな方々の支えがあつて積み上げてきたものが小さくても花開くよう、願って止みませ

の水祭りにも多くの方がお参りくださり初盆の方々をお送りすることができました。十一月八日の寺めぐりにもバス二台で美作地域の二つのお寺にお参りすることが出来ました。また奥津溪の紅葉も最高の見ごころでした。十二月三十一日の除夜の鐘(年越し)には地元庄田の方を始め多くのお参りをいただきました。

昨年一年間檀家の皆様方のご協力により行事が盛大に行うことが出来ました。本堂に有難うございました。

さて、本年は皆様もすでにご存知のとおり朝日寺にとつても、檀家にとつても大きな記念すべき年であります。

ご本尊の薬師如来像の三十三年に一度のご開帳の年になります。

平成二十六年四月五日(土)、四月六日(日)の二日間行います。この間稚児行列や恐竜の卵の展示やその他色々のイベントも行いたいと思っております。ご開帳を盛大に行う為にお願いがございます。稚児行列の稚児さんの数がもう少しほしいのです。皆さんの近くに小さいお子さんがおられましたら声をかけてみてください。どうかよろしくお願いたします。それから、檀家の皆様にお願いで御座います。昨年お知らせいたしましたとおり護寺費を今年より五千円にさせていただきます。お寺の建物の維持には大変お金がかかります。また十年、二十年、三十年将来に向けての積み立てもして子や孫やひ孫の負担が少しでも軽くなるようにしたいと思っております。どうかよろしくご理解くださいますようお願いいたします。

本年も檀家の皆様には色々御世話になることが沢山御座います。最後にかよろしくお願いたします。最後が良い年でありますようお祈りいたします。